

日刊日本金属通信

2022年(令和4年) 7月27日(水曜日)

株式会社 日本金属通信社

大阪本社 大阪市西区江戸堀1-19-23
☎06(6443)6891 FAX(6441)1990
東京本社 東京都中央区八丁堀3-23-3
☎03(6222)0331 FAX(6222)7226
中部通信部 愛知県豊田市東新町3-31-2
☎090(6929)8875
w e b <http://www.nikkintsu.co.jp/>
紙面版 6ヵ月53,784円 1年101,520円(8%税込)
電子版 6ヵ月51,480円 1年96,800円(10%税込)
禁：無断転載・コピー・FAX・メール転送・翻訳

桂 スチール

岡山内の3工場で大規模投資

旺盛なBH需要に対応

桂スチール(兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今年7-9月に、ビルドH形鋼(BH)の生産・加工設備と付帯設備を増強する。設備投資は、岡山県備前市内の岡山第1工場、岡山第3工場、友延工場で、設備投資金額は数億円規模となる見込み。とくに岡山第3工場には最新鋭のロボット鋼材切断設備を導入する。今回の投資は旺盛なBH需要に対して、1次加工を含めて高品質な製品を安定的に供給できる体制を強化するのが狙い。

先行きのBH需要についても大型サイズや極厚物・長尺物を中心に堅調に推移すると見ており、こうした需要にきめ細かく対応するとともに、生産性向上を図るには生産設備と1次加工設備、さらにクレーンなどの付帯設備の増強が必要と判断した。

計画では7月、岡山第1工場のD棟に4・8ト天井クレーンを設置する。8月には第1工場にBH用の組立矯正機1基、平板横型開先機1基を導入するとともに、友延工場は屋内に20ト片脚橋型クレーン1基、屋外に2・8トのテント用のクレーンを設置する。矯正機と平板横型開先機はBH製作の前処理と最終工程の生産体制の強化が目的。

9月は第3工場にH形鋼用ドリルマシン1基(大東精機製)とH形鋼用開先加工機1基を導入し、さらにロボット鋼材切断設備(ハタリー製)を新設する。友延工場にもバンドソー1基(大東精機製)を導入する。BHの大型サイズの1次加工の能力拡大を図るとともに、省力化の推進につなげていく。

三木社長は「今後も、効率的な生産体制を整備し、高品質なBHを取引先に提供し、顧客満足度の向上を図っていきたい」としている。